

ヨーロッパのこどものうた  
～作詞並びに編曲～

森 麻希子 千田 耕太郎 淡路 和子  
四條畷学園短期大学

European Children's song  
- Lyrics and transcriptions -

Makiko Mori, Kotaro Senda, Kazuko Awaji  
Shijonawate Gakuen Junior College



ヨーロッパのこどものうた  
～作詞並びに編曲～

森 麻希子\* 千田 耕太郎\*\* 淡路 和子\*\*\*

European Children's song  
- Lyrics and transcriptions -

Makiko Mori Kotaro Senda Kazuko Awaji

はじめに

20数年前、私が留学中のウィーンで、ふと散歩に出たとき、スーパーマーケットの入り口にある「骨董品販売コーナー」でこの本「Liederbuch」を見つめました。

何気なくページをめくってみると、可愛い「幼児のための童謡（わらべうた）」がたくさん載っていました。

思わず買って帰ったところ、その中にはヨーロッパ各国の童謡がドイツ語に翻訳されていました。

これを、この度、私の研究室の千田耕太郎講師、森麻希子非常勤講師の協力を得て、日本語訳と簡単な伴奏をつけて「新しいヨーロッパのこどものうた」として出版しようと計画しました。

その一部が出来上がりましたので、紀要に出稿いたします。

淡路 和子

1. ヨーロッパのこどものうた制作の前に

現代の日本の社会はより便利に、より快適になるよう発展してきた。

街中では物があふれ、年中無休と謳っているスーパーや家電良品店も増えているように思う。

特にこの十数年で大きく変化したことは通信インフラの在り方だろう。

携帯電話やインターネット、パソコンの普及、

近年ではスマートフォンの台頭があげられるだろう。ひと昔前までは情報収集の手段として、現地へ直接赴く、図書館や書店に行き参考文献を探す、また他人との交流の中から手がかりを探す、等々自身の目や耳、行動力を持ってでしか情報を得られなかった。

しかしITメディアの普及により、その場に居ながらにして世界中の様々な情報をより簡単に、より手軽に知り共有することができるようになった。便利であること、手軽であること、これらは決して悪いことではない。

では、音楽教育の観点から見るとどうだろうか。書店に並ぶ保育者向けに出版されている楽譜にも手軽さが求められているためか、易しく弾けると謳われている童謡の編曲には、原曲が持つ多彩な音色、響き、躍動感を壊すような、より単純なハーモニー、リズムパターンで伴奏づけられたものも少なく無い。

幼児にとって身近な音楽である童謡は、感性や言葉を育む1つの手段として豊かな多様性が求められる。保育者においても歌声やピアノ伴奏を通じて幼児に何を伝えたいか考えてみる必要があるだろう。

そして現代における幼児に向けた歌は言葉づけが複雑でメロディとリズムに重点がおかれており、調性、響きの美しさを感じられるものが少なくなってきたように思う。

西洋音楽を源流とする作品には、様々な調性から織りなされる響きがあり、言葉だけで体現できるものでも無い。

\* 四條畷学園短期大学 非常勤講師

\*\* 四條畷学園短期大学 保育学科

\*\*\* 四條畷学園短期大学 保育学科

「ヨーロッパのこどものうた」制作に携わり留意したことだけでなく、幼児が童謡を通じて音楽を学ぶことの意義と、保育者が演奏をする上でどのようなことが障害となっているかについても触れてみたい。

## 2. 五領域と音楽の関係性

この度、幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴い、3歳児以上の「ねらい及び内容」、幼児教育に関する記載が概ね共通化されている。

園生活に関わる五領域と音楽にはどのような関わり合いがあるのだろうか。

幼稚園教育要領 第2章より表現 内容(6)【音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。】と明記されており、言わずもがな音楽は『表現』という領域と深い関わりを持つこととなる。

では他の領域についてはどうだろうか。五領域の中で音楽と直接的な関わり合いが考えられるのは、「言葉」「健康」であると推察されるが、保育者の取組方によっては「環境」「人間関係」についても関連していくことが考えられ、順番に考察していくこととする。

### ア) 言葉

幼稚園教育指針によると「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。」とある。

音楽と言葉は成り立ちに深い関わり合いも持つ。どの言語にもイントネーションとアクセントがあり、言葉の持つリズムと抑揚が今日の音楽の源となってきた。

童謡などの歌唱指導を行う際は、保育者の適切な言葉がけが必要となる。ただ口真似のように歌唱指導するのではなく、保育者は歌詞のもつ意味や情景を的確に理解し、想像力を持って園児に伝えることができれば、子どもたちも興味をもって耳を澄ませ、自由な発想の元に感じたことを言葉にしてくれるだろう。

### イ) 健康

教育指針によると「ねらい(2) 自分の体を十分

に動かし、進んで運動しようとする。」と身体的なことだけでなく「内容(5) 食べ物への興味や関心をもつ。」と食育に関することについても明記されている。

身体的なことについては、リトミックや幼児体操、体を使ったカノン等が考えられる。

身体的表現のための音楽では、ランニング、スキップ、ケンケン、マーチ等基本的な動きだけでなく、うさぎ、へび、きりん、バッタ、ゾウなど様々な生き物の真似遊びをテーマにしたものも少なくない。がむしゃらに動きのみに集中するのではなく、聴くということと動作との統合性が「音楽」と「健康」の関係において一つの特徴となるのではないだろうか。

食べものへの興味や生活習慣に関しては童謡を通じて伝えていくことができる。

例として「ゆるしてママ(みなみらんぼう)」では肉や野菜など色々な食べものについて触れられており、どうしても食べられないものがあることを面白おかしく歌っており、最終的には食事は楽しく食べましょうと締めくくっている。子どもによって苦手な食べものは様々だが、保育者もまずはその事実を受け止め理解を促していく必要がある。食べ物や生活習慣に関する童謡は多岐に渡るため、食事中でなくとも好き嫌いをせず食への興味や重要性を伝えるきっかけにすることができ、子どもたちの心に蓄積されていくものがあるのではないだろうか。

### ウ) 環境

教育指針によると「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ」「3. 内容の取り扱い(4) 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国家、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすること」とある。

自然と触れ合うことについては、実際に自然の中に赴き体感することが一番ではあるのだが、童謡でも四季折々の自然のことや動物、昆虫など環境に関することについて関節的に伝えることができるだろう。「春がきた」「うみ」「虫のこえ」「雪」「かぜさんだって」「めだかの学校」「ぞうさん」等々さまざまな歌があり、保育者の言葉の工夫によっ

て想像力や関心を膨らますことはもちろんだが、ペープサート、パネルシアター等を用いることによって視覚的にも訴えかけていくことができるだろう。

## エ) 人間関係

教育指針によると「1ねらい(1) 幼稚園生活を楽しく、自分の力で行動する充実感を味わう。(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。」とある。

歌唱、リズム打ちなどにおいても、よく出来ている子ども数人または一人にお手本をさせ、他にも皆の前で出来る、頑張れる人がいるかを聞くことによって子どもの自主性に訴えかけ、できる、やってみる、ということの体感へ繋げることができる。しかし、人前で出来るかどうかの精神状態には個人差があり、積極的に前へ出たい者や、恥ずかしがり屋で中々人前でできない者もいる。その際にその場で必ず前へでることを強要するのではなく、あくまで子ども自身がやってみようと思えるまで長い目で優しく問いかけをする必要がある。子どもによっては長期間に渡り見守る必要が出てくる場合もあるが、他の子どもに触発されて、最初はおもむきでいた子どもも段々と自発的にできるようになる。

また、聴く態度について子どもによっては誰かが発表している間に喋ったりふざけたりするものが出てくることもあり、その場合には「友達が一所懸命に発表してるのに、どんな気持ちになるかな？」など自分の場合に置き換えて論じていく必要がある。

楽器など扱った場合にはやさしく扱うことを、使ったら片付けることを習慣づけ乱暴にあついたり振り回してしまうと怪我をすることもある

## 2. 幼児期に音楽的な体験をする意義

幼稚園教育要領にもある通り音楽は保育の現場においても必須カリキュラムとなっている。幼児に対して音楽教育を行うと身体的にどのような発達が望めるだろうか。

人間の構造上、音と密接に関わり合う器官は聴覚に関する部位である。

しかし、音楽というものはどうやら聴覚に関してのみ働きかけるものでもないようだ。

まず、音感とは9歳程度で確立すると言われており、「音楽の訓練を始めた年齢が早ければ早いほど、ピッチを正しく認識したり、リズムを正確に感じ取る能力が高いという研究結果がある」(\*1)

リズムに対する反応では「体を動かすために働く部位(運動前野)の神経細胞が反応する。さらに、リズムが鋭くなったり、リズムがより複雑になったりすると、身体を動かすための脳部位の活動が強まるということが明らかになっている。」(\*2)

そして「ハーモニー(和声)の認識には、言語の文法を処理する脳部位である「ブローカ野」が関与している」(\*3)

「音楽を鑑賞しているとき、脳の各部位は、…役割分担をして音の情報を処理しており、それらすべて合わさって、1つの音楽として認識している。」(\*4)

上記のことから音楽を聴くことにより、聴覚だけでなく運動、言葉に関する脳の様々な部位が活動していることがわかる。保育者が実際に幼児に童謡等の演奏を提示する場合も、単調な和声・リズム感、そして拍子感のない演奏をするのではなく、原曲より簡素化されているにしろ、より多様な和声を感じられる曲を選び、ノリのよいリズム感、拍子感を持った演奏をすることで、幼児にとってより良い発達が望めるということだろう。

また様々な音を聴き取る「良い耳」を育てる条件にも触れられており「同じ量の音楽を聴いていても、受動的に聴いているだけでは不十分で、能動的な聴体験、…自分自身で楽器を鳴らして聴こえてくる音楽を聴くほうが、メロディやリズムを処理する聴覚野の神経細胞の働きをいっそう良くする。」(\*5)とある。

この能動的な聴体験ということから、器楽だけでなく歌声においても、何らかの形で実際に演奏を行ったほうが個人にとってより良い発達が望めるという風に解釈できるのではないだろうか。

園生活において、幼児が実際に体験しやすい楽器といえば、タンバリン・鈴などの簡易楽器、ピアノ、ハンドベル、木琴等様々なものが上げられるだろう。しかし、私達にとって一番身近な楽器は声である。日常の保育において歌は密接に関わるものであり、様々な音楽性を持つ童謡を聴き、実際に歌うということは、幼児期において重要な役割を果たすだろう。

#### 4. 多彩な音色について

ここでは童謡の伴奏に使われることが多いピアノの音色について触れておきたい。

まず、最初に留意しておきたいのが、どの楽器においても音は絶対的な高さで完全に固定されているものではないということだ。弦楽器や管楽器等「オーケストラ楽器はたいがい、その音高を少し変えることができる。」(\*6) のだ。弦楽器においては弦と指の位置関係で音程を自在にコントロールすることができ、管楽器においては息の圧力によってピッチをコントロールできる。

では、ピアノについてはどうだろうか。

ピアノは打鍵すれば、誰でも簡単に決まった高さの音を発生させることができ、ピアノにおける音というのは完全に固定されているように受け取られることがある。しかし、奏者の感性やその背後にある和声、倍音の響かせ方によって、ピアノが発生させる音も音色という形でピッチの感じ方が微妙に変化するのだ。ピアノは今日においては平均律が用いられているのだが、「平均律は、オクターブを除くどの音程も音響学的には合っていない。～しかし、この「合っていない」という状態は、各音程に分配されることで緩和されるため、平均律の音程は、(それぞれ、旋律、和声に適した) ピュタゴラス音律による音程の方向へも、ザルリーノ音律による音程の方向へも、もっていくことができる。」(\*7) そして打鍵の仕方によっても音色の変化が生じる。「硬く打鍵するタッチの方が、やわらかく打鍵するタッチよりも、音の倍音の中でも特に高い周波数の倍音が大きい。」(\*8)

上記のことからわかる通り、打鍵の仕方や平均律の持つ特性によりピアノにおいても、どの音律を意識し、どのように和声を感じるかによって実際に細やかな音色の変化を感じとることができるのだ。

これらはただ音を発生させれば音色の変化が成り立つものではなく、演奏をする保育者自身がどのような音色をイメージするかによって大きく左右される。手軽に何となく演奏するのではなく、どのような音のイメージを持つか日頃から思い描くことが必要となるだろう。

#### ■自由な表現をするために～保育者に必要な基礎能力について

##### ア) 読譜について

演奏に必要な基礎的能力として、読譜能力があること、音程を正しく知覚できること、楽器に応じた適切な身体のコントロールができることが挙げられる。

読譜能力について、音名の理解、音価・拍子との関係性、調性感、旋法感…など様々な要素が統合されることが必要となる。

ここでは初心者が壁を感じやすい「音名の理解」に焦点を当てたい。

私たちは誰もが義務教育期間中に音楽を学んでいるが、学校の授業中に学んだ内容だけで自在に楽譜を読むことが出来る人は果たしてどれくらいいるだろうか。

保育者を志す人は大半がピアノ未経験者であり、音符を自由に読めるものは少ない。

音符が読めないということは、アルファベットが分からないまま英語に取り組んでいるようなものであり、演奏する上で多大な労力を用することとなる。

では、ピアノを習えば皆が一様に自然と読譜力が確固たるものになるのかというとそうではない。幼少期から継続してピアノを習っていても、瞬時に音名を判断できないものもある。

(この瞬時に判断というのは、インプットとアウトプットがほぼ同時にできるということ。即ち、楽譜に書かれた音を感覚的に理解し、演奏に結びつための動作が瞬時に判断出来るということ。)

読譜の習得レベルとして次のようにいくつかの段階に分けられるように思う。

- 1 ト音譜表、ヘ音譜表ともに、ある音を基準にして順次に確認する必要がある、音高に対応した鍵盤の位置を探すのにも時間がかかる。
- 2 ト音譜表の五線内はある程度読むことができるが、ヘ音譜表は読めない。  
跳躍した音に対して、いつも固定された基準音から音名を判断しており、  
相対的な音高の位置関係の理解も十分とは言え

ない。

- 3 ト音譜表、ヘ音譜表ともにある程度読む事ができ、音高の相対的な位置関係も理解している。
- 4 ト音譜表、ヘ音譜表ともに瞬時に判断できる

上記のように読譜において個々人より様々な課題が考えられる。

初心者がある曲について取り掛かる際、始めのうちは音符・音名を読む努力をするが、何回か練習するうちにメロディを聴き覚え、指の動きで正誤を判断するようになるため、毎回の練習で1つ1つの音名に注意を向けることは余程意識しないと難しいように思う。

効率よく音名を読むためには、それ自体の訓練が必要となる。音名による歌唱や、プリント等を通じて音名を読む経験を蓄積し、覚えようという気力を持って勉強できるカリキュラム作りが重要となってくる。

しかし、読譜能力が向上したからといって直ちに思い通りの演奏ができるわけではなく、心地よい演奏をするためには技術的な訓練が必要となる。だが楽譜を読む上で障害となっていることを少しでも取り除き、難なく読むことができれば、新曲へ取り組み時の大きな手助けとなってくれるだろう。

#### イ) 演奏のために

ピアノをある程度ど自在に演奏するためには、身体とピアノの体感的関係性を把握する必要がある。新しい曲に取り組むときに、目が手元の方ばかり向いてしまうと、初めから暗譜しながら弾くことになるため非常に効率が悪い。

目線は常に楽譜に向き読譜に努め、指、腕の動きから発せられた音を聴覚によって聴きわける必要がある。

また読譜のためだけでなく、保育者が日常保育の中で童謡などを取り上げる場合、楽譜やピアノに嚙り付いて演奏するのか、子どもの顔を見て演奏をするのかによって、お互いに感じるものが変わってくる。音は指向性があるため、伝える対象であるものの方を向いての方が良く、子どもの表情や様子から集中して取り組んでいるか、よく観察することが可能となる。

ヨーロッパのこどものうた～作詞・編曲に当たって

ドイツ語の原詩を拙いながらも日本語訳するにあたり、抽象的な表現の多さや歌詞の持つ文化の違いから、そのまま子どものための歌詞として扱うには、たとえ意識をしたとしても難しいと感じた。

原詩の持つ情景やキーワードとなる言葉を元に想像力を働かせ、子どもたちがその歌の中に実際に息づいていたとしたら、どのような気持ちになるか、どういうことが起これば嬉しいかを、考えながら作詞をした。

そして、作業にあたり、数多くの童謡を手がけた中田喜直(1923-2000)、湯山昭(1932-)の童謡も参考にした。どんなに小さな可愛らしい曲でも、子どもの心に触れるようなやさしい響きを感じられるからだ。

子どものための歌だからこそ、手を抜くことなく、音楽的な広がりを持った表現の仕方を模索しなければならない。だからと言って、ピアノの技術的に大変難のある曲では保育の現場において実用性が高いとはいえない。ピアノの技術は個々人によって様々であり、また歌唱指導の段階においても必要とされる伴奏のあり方が変わってくるからだ。

しかし、始めから可能な限り簡易であることばかりを念頭においてしまうと、アイデアや音楽的な表現の自由さは失われてしまうように感じた。

そのため作業において、個人的に留意した点は以下の3点である。

- ・多彩なハーモニーが感じられること
- ・メロディとバスを取り出した場合でも演奏が成り立つこと
- ・子どもたちが興味、関心を持つことができる歌詞であること

#### 選曲について

幼児が好む曲調の傾向として、ノリがよく、明るさを感じられる曲があげられる。

しかし、これらの傾向だけではなく、実際に幼児の歌唱指導に携わっていると素朴でやさしい曲も好んで歌われていた。その一例を下記にあげておく。

ノリが良く、明るい曲	素朴でやさしい曲
・ペンギンちゃん (まど・みちお作詞 中田喜直作曲)	・りんごころん (さとうよしみ作詩 中田喜直作曲)
・カレーライスのうた (関根栄一作詞 服部公一作曲)	・くりの実と子リス (小林純一作詞 中田喜直作曲)
・ゆるしてママ (みなみらんぼう作詞・作曲)	・きたかぜさん (こわせたまみ作詞 中田喜直作曲)
・朝いちばんはやいのは (阪田寛夫作詞 越部信義作曲)	・ゆりかごのうた (北原白秋作詞 草川信作曲)
・ラッパのこびと (まど・みちお作詞 湯山昭作曲)	・雨ふり (北原白秋作詞 中山晋平作曲)

上記のことに加え、童謡が必要となる場面は日常の保育、保護者参観、発表会など多岐に渡るため、より多様な選択肢があるほうが好ましく感じられた。そのため、長調や単純拍子の曲だけではなく、複合拍子や旋法的な雰囲気を感じられる曲も選曲した。

#### 指導にあたって

自身で作詞・伴奏付けした5曲を、実際に四條畷学園音楽教室の幼稚園コースにおけるソルフェージュ受講生(木曜クラス年中組5人・年長組5人、金曜クラス年中組2人・年長組4人)を対象に実際に指導を試みた。

その中でも特に園児の反応が良かったものについて述べることにする。

#### 『サンタクロース』について

この曲のメロディはト長調のすっきりとした和声感を持って構成されている。

4小節+4小節+2小節のフレーズからなる短い曲だ。音域はD4～D5と歌いやすく幼児にとって適しているように感じられた。

原譜に書かれている和音記号は、C・Dの2種類のみで書かれたシンプルなものなのだが、それに拘らず様々な音色が感じられるよう伴奏付けを試みた。その際に、いたずらに風変わりな和声をつけるのではなく、あくまでメロディから感じとった和声感であるように心がけた。

そして、歌詞についてこの曲の1番では子どもたちに親しみのある言葉を選び、2番ではクリスマ

スらしい少々大人っぽい言葉も織り交ぜた。原詞にはループレヒト(サンタクロースの元になった聖ニコラウスの従者)のことについて歌われているのだが、日本で馴染み深いサンタクロースのことを取り上げた。

1番の「りんご、ナッツ、チョコレート、オレンジ、紅茶」と歌われる箇所では、園児たちは「チョコレートいつも食べるよ。」「甘い食べ物がいっぱい。」「ナッツってなに?」「紅茶はママが好きだよ。」等、様々な反応を示した。

2番については、園児にとって耳馴染みの薄い言葉も選んだが、知らない言葉については園児自身が質問を投げかけ、語感自体を楽しんでいたように見受けられた。

この箇所ではメロディが展開されるため、次々に並ぶ単語が言葉遊びのように感じられたのではないだろうか。

木曜日、金曜日どちらのクラスも2,3週に渡りこの曲を歌ってみたのだが、木曜日は急遽休講になった週があったため、最初の指導(1番のみ)から2週間後に2回目の指導にあたった。すっかり内容を忘れていたかと思っていたのだが、プロンプトなしでその箇所を歌えるほどに印象に残っていたようだ。

#### 終わりにかえて

今回の作品集は道半ばということもあり、自身が選曲した曲は冬をテーマにしたものに偏っている。最終的には四季折々の曲について触れられればと思っている。

そして本学の保育学科卒業生の声を聞いただけでも、日常の保育向けに弾きやすい曲が求められる場合と、発表会等に使用できる少し華やかな伴奏が求められる場合がある。

様々な場面に対応できる実用性の高いものにしていくためには、更なる模索が必要であると感じた。

そして、音楽と五領域の関わり合い、音楽的な体験を通じて幼児の身体的な発達と、童謡のもつ伴奏在り方についても考えを纏めるにあたり、常に工夫と注意を払う必要があると感じた。能動的な聴体験をするためには、微妙な音の差異を感じる必要があるため、多くのところで見られるどなりつけるような旋律感のない歌声ではなく、幼児が歌う場合でも自然な響きをもった正しい音程感



が求められるだろう。選曲、楽譜の選び方についても、ただ弾きやすいことのみを主眼に置くのではなく、簡易に編曲されていても原曲の持つ味わいが損なわれないものを選ぶ必要があるのではないだろうか。

そして何より、子どもたちが興味、関心を持って取りくめるような環境作りが重要となる。保育者自信も童謡そのものもつ音楽の豊かな味わいを感じ、どうすれば幼児の心に真に届くような在り方を常に模索していくべきではないだろうか。

森麻希子

#### 引用文献・参考文献

幼稚園教育要領ハンドブック 2017 年告示版 監修 無藤隆 Gakken

保育所保育指針ハンドブック 2017 年告示版 監修 汐見稔雪 Gakken

幼保連携認定こども園教育・保育要領ハンドブック 2017 年告示版 監修 無藤隆 Gakken

ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと トーマス・マーク著、小野ひとみ監訳 春秋社

ピアニストの脳を科学する 超絶技巧のメカニズム 古屋晋一 春秋社

(\*1 同上 P.70

(\*2 同上 P.41

(\*3 同上 P.76

(\*4 同上 P.76

(\*5 同上 P.74

(\*8 同上 P.212

音律論 ソルミゼーションの探求 東川清一 春秋社 (\*6 P98-1

理論・方法・分析から調性音楽を読む本 アンリ・ゴナール著 藤田茂 訳 音楽之友社

(\*7 P27-1

#### 参考資料

東 保 編著「やさしい伴奏によるこどものうた 1、2 巻」全音楽譜出版社

東 保 編著「やさしくひける幼児のうた」チャイルド本社「あめふりくまのこ 湯山昭選集」カワイ出版

「めだかのがっこう 中田喜直選集」カワイ出版

－ 2017. . 受稿、2017. . 受理－

# 天使がやってくる

作曲 C.G.ヘリング

訳詞・編曲 森 麻希子

Piano *mp*

リン ドン デイン ドン かねがなる てん し がー やっ て くる よ

も み の き かざろう ようれい たの しい クリスマス

み ん な で う た お う レー マー マゼ サイナハサ

The musical score is written in G major and 2/4 time. It begins with a piano introduction marked 'Piano' and 'mp'. The first system shows the piano accompaniment. The second system continues the piano accompaniment. The third system introduces the vocal melody with the lyrics 'リン ドン デイン ドン かねがなる てん し がー やっ て くる よ'. The fourth system continues the vocal melody with the lyrics 'も み の き かざろう ようれい たの しい クリスマス'. The fifth system continues the vocal melody with the lyrics 'み ん な で う た お う レー マー マゼ サイナハサ'. The piano accompaniment continues throughout, providing harmonic support for the vocal lines.

# 秋のうた (A)

作曲 J.F.ライヒャルト

訳詞・編曲 森 麻希子

♩ = 54

Piano *mp*

あ か や き い ろ の は っ ぱ が ひ ら ひ ら

か ぜ に の っ て ー み ん な お い で

ぼ く と あ そ ぼ う あ き と い っ し ょ に ー

*8va*

# 秋のうた (B)

作曲 J.F.ライヒャルト

訳詞・編曲 森 麻希子

♩ = 54

Piano *mp*

あ か や き い ろ の は っ ぽ が ひ ら ひ ら

か ぜ に の っ て ー み ん な お い で

ぼ く と あ そ ぼ う あ き と い っ し ょ に ー

# ちらちらこな雪

作曲 S.S.マルシュ

訳詞・編曲 森 麻希子

Piano

*pp*

※

1.ちらち ら こなゆ きゆ  
つに マフラー てぶ

2.ちらち ら こなゆ きほ  
も おがわ もー

※2番のみ最後までOct.上で演奏(右手のみ)

*mp*

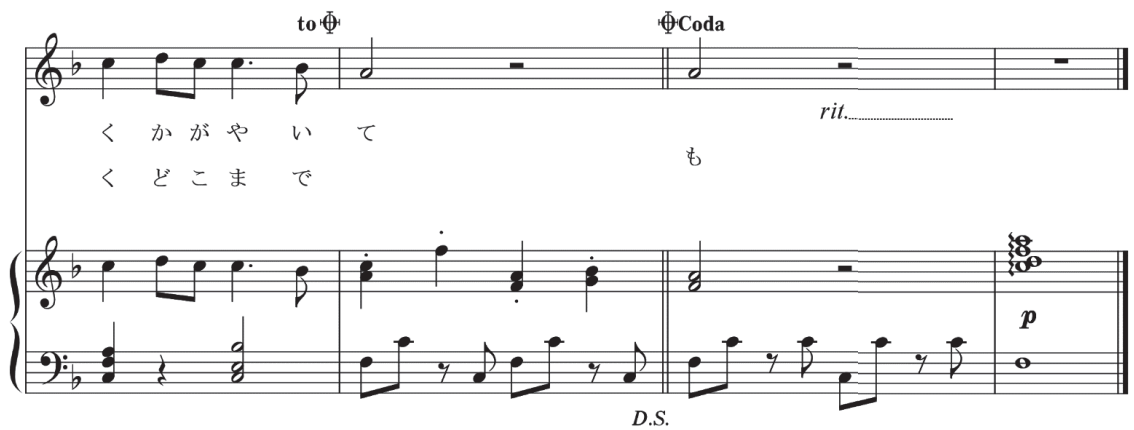


1. 2.

き う さ ぎ ま っ かな ほ っ ぺ な が ぐ ろ う の は  
 く ろ し て ゆ き だ る ま つ く の は ら て し ず  
 し の そ ら ゆ め み る せ か い  
 も り ー も ね む り に お ち



ら へ か け て い こ う ず っ と ず っ と し ろ  
 か に ふ り つ も る ず っ と ず っ と し ろ



to Coda

く か が や い て り っ と .....  
 く ど こ ま で も

*p*

D.S.

# サンタクロース

作曲 C.プレスゲン

訳詞・編曲 森 麻希子

$\text{♩} = 88$

Vocal

Piano

1. サ

ン タ が く る よ プ レ ゼ ン ト も っ て  
ち そ う た べ よ う サ ン タ も よ ん で

りん ご ナ ッ ツ チョ コ レー ト オ レ ン ジ こ う ち や  
ス ー プ シ ャ ン パ ン し ち め ん ち ょ う ま あ る い ケ ー キ

1.

リ ラ リ ラ リ ラ ル ラ ラ

2. こ

2.

# 月と汽車

作曲 G.フォルスターズ

訳詞・編曲 森 麻希子

Piano

The piano introduction consists of four measures. The right hand plays a melody of eighth notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The left hand plays chords: G4-B4, G4-B4, G4-B4, G4-B4. The key signature changes from one sharp (F#) to two sharps (F#, C#) at the end of the fourth measure.

1.ほしがまたたくよるはつきへきしゃ  
2.ほしがまたたくよるはつきもおしゃ

The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line in the left hand and chords in the right hand. A dynamic marking of *mp* is present at the beginning of the piano part.

がゆくおとぎのくにへとオーローラのトンネル  
べりするよいこをさがしてそらのパーティーへ

The piano accompaniment continues with the same eighth-note bass line and chords, supporting the vocal melody.

ぬけてきてきをならそーうて  
おいでぎんのだレスキー

The piano accompaniment concludes with the same eighth-note bass line and chords, ending with a double bar line.



# この広い世界に

作曲 T.フリーリッヒ

訳詞・編曲 千田 耕太郎

Piano introduction for the first system. The music is in 4/4 time. The right hand starts with a quarter note C4, followed by a quarter note G4, and then a quarter note F4. The left hand starts with a quarter note C3, followed by a quarter note G2, and then a quarter note F2. The piece concludes with a triplet of eighth notes (G4, F4, E4) in the right hand and a quarter note C3 in the left hand.

Piano accompaniment for the first two lines of lyrics. The right hand melody is: C4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), G4 (quarter), A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), C4 (quarter), B3 (quarter), A3 (quarter), G3 (quarter), F3 (quarter), E3 (quarter), D3 (quarter), C3 (quarter). The left hand accompaniment is: C3 (quarter), G2 (quarter), F2 (quarter), G2 (quarter), A2 (quarter), G2 (quarter), F2 (quarter), E2 (quarter), D2 (quarter), C2 (quarter), B1 (quarter), A1 (quarter), G1 (quarter), F1 (quarter), E1 (quarter), D1 (quarter), C1 (quarter). The piece concludes with a triplet of eighth notes (G4, F4, E4) in the right hand and a quarter note C3 in the left hand.

Piano accompaniment for the last two lines of lyrics. The right hand melody is: C4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), G4 (quarter), A4 (quarter), G4 (quarter), F4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), C4 (quarter), B3 (quarter), A3 (quarter), G3 (quarter), F3 (quarter), E3 (quarter), D3 (quarter), C3 (quarter). The left hand accompaniment is: C3 (quarter), G2 (quarter), F2 (quarter), G2 (quarter), A2 (quarter), G2 (quarter), F2 (quarter), E2 (quarter), D2 (quarter), C2 (quarter), B1 (quarter), A1 (quarter), G1 (quarter), F1 (quarter), E1 (quarter), D1 (quarter), C1 (quarter). The piece concludes with a triplet of eighth notes (G4, F4, E4) in the right hand and a quarter note C3 in the left hand.

# こなゆき わたゆき

ヴォルガドイツ民謡

訳詞・編曲 千田耕太郎

Piano introduction in 3/4 time, consisting of two staves (treble and bass clef). The melody is in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef.

Vocal line and piano accompaniment for the first line of lyrics. The vocal line is in the treble clef, and the piano accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the vocal line.

こな ゆ き わ た ゆ き さ ら さ ら ふ る く も  
こな ゆ き わ た ゆ き に わ に つ も る さ あ

Vocal line and piano accompaniment for the second line of lyrics. The vocal line is in the treble clef, and the piano accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the vocal line.

の う え か ら く る の か し ら  
み ん な あ つ ま っ て ゆ き だ る ま つ く ろ う

Piano conclusion in 3/4 time, consisting of two staves (treble and bass clef). The melody is in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef.

# おやすみニーナ

作曲 M.コルト

訳詞・編曲 千田耕太郎

Piano introduction in 4/4 time, featuring a treble and bass clef. The melody is simple and gentle, with a key signature of one flat (B-flat).

Vocal line and piano accompaniment for the first verse. The lyrics are written below the vocal line. The piano accompaniment includes a treble and bass clef.

ほら ニーナ その きのかげに ハリ ネズミ いる でしょう おな  
ねえ ニーナ よく きいてごらん なにか きこえる でしょう フク  
さあ ニーナ めを とじましょう ほら もう 9じ はん— こと

Vocal line and piano accompaniment for the second verse. The lyrics are written below the vocal line. The piano accompaniment includes a treble and bass clef.

かを クルクル まるめす やすや ね むる  
ロウが ホウ ホウと こも りうた うたつ てる  
もは そろそろ ね ましょうお やすみ な さ い

# つばめよどこに

イギリスの民謡

訳詞・編曲 千田耕太郎

Piano introduction in 2/4 time, key of B-flat major. The right hand features a melody with a triplet of eighth notes in the second measure. The left hand provides a simple accompaniment.

Vocal line and piano accompaniment for the first two lines of lyrics. The piano accompaniment continues with the same melody as the introduction.

1.あ さ ひ や さ し く わ ら い か け る と て  
2.う た う と ハ ン ナ は か な し く な っ て

Vocal line and piano accompaniment for the next two lines of lyrics. The piano accompaniment continues with the same melody.

ハ ン ナ し ず か に て う た い だ す  
な み だ う か か べ て う た い ま す

Vocal line and piano accompaniment for the next two lines of lyrics. The piano accompaniment continues with the same melody.

1.2.「い つ か え る の? ま た あ え る の?

Vocal line and piano accompaniment for the final line of lyrics. The piano accompaniment continues with the same melody.

つ ば め よ あ な た は ど こ に い る!

D.S.

# ちかてつのせんろに

アメリカの子どもの歌

訳詞・編曲 淡路 和子

Piano

ちか て つ の せ ん ろ に ー ら い お ん の は が

The first system of the musical score consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written in a treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). It begins with a whole rest, followed by a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, a quarter note C5, a quarter note B4, a quarter note A4, a quarter note G4, and a quarter note F#4. The piano accompaniment is written in a grand staff (treble and bass clefs) with the same key signature and time signature. The right hand starts with a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, and a quarter note C5. The left hand starts with a whole note G3.

ね お ち て い る な ん て し ん じ ら れ な い

The second system of the musical score continues the vocal line and piano accompaniment. The vocal line starts with a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, a quarter note C5, a quarter note B4, a quarter note A4, a quarter note G4, and a quarter note F#4. The piano accompaniment continues with the same pattern as the first system.

# ながぐつはいて

(カノンにしてもよい)

作曲 C.F.ツェルター  
訳詞・編曲 淡路 和子

1

Piano

な

2

3

5

がぐつはいてさかさをしてさお

4

9

そとにでたらばあめはやんじゃった

# ねずみがおどる、はだしでね

アメリカのこどものうた

訳詞・編曲 淡路 和子

Piano

ねずみがおどるー

はだしでおどるー ねずみがおどるー

おにわのしばふで シュー シュー ルッケデグー

シューシュー ルッケデグー シュー シュー ルッケデグー いっしょにおどろう

# ミャウミャウこねこ

(カノンにしてもよい)

フランスの曲

訳詞・編曲 淡路 和子

1

ミャー ミャー なくのはだれ

Piano

2

ミャー ミャー おそとにでたいの ぼくに ついておいで

3

いっしょに やねのうえで ミャウ ミャウ かわいいこねこ

ミャー ミャー いっしょにう たおう





